

令和7年3月13日

足立区立西新井中学校
校長 石井 秀生 様

足立区立西新井中学校
開かれた学校づくり協議会
会長 石鍋 浩

令和6年度 学校関係者評価書

1 自己評価書全般について

おおむね適切な自己評価をしていると考える。

一人一人の生徒が輝き笑顔あふれる学校づくりを目指した、生徒の自尊感情を高める取組を通して、落ち着いた学校づくり、生徒の自主性向上について一定の成果が出ているといえる。

さらに、より良い学校を目指した生徒会中心の自治活動はより一層活発で、校内環境美化の取組の他に、校則についての話し合いや、生徒が生徒に行う活動として「授業態度をより良くする活動」やチャイム着席にも取り組んだ。これらの取組や、生徒会を中心とした生徒による活動からは、生徒一人一人の成長が感じられ、家庭・地域から信頼される学校として、今後も位置づけられていくと考える。

評価できる点、努力してほしい点としては以下の3点である。

- (1) 生徒が意欲をもって学習に取り組めるよう、学力の向上目指して努力した。生徒一人一人に応じた学習を充実させ、今後さらに成果があらわれることを期待している。生徒一人1台のタブレット端末等の活用については、今後も引き続き授業や家庭での学習に活用する他、アナログとデジタルを融合させた有効活用によって、学力向上に努力してほしい。
- (2) 不登校生徒への適切な対応については、不登校生徒数の多さが大きな課題であるが、不登校生徒の割合が増えなかったこと、ランチルーム登校の参加者が増加したことは評価できる。引き続き日頃から一人一人の生徒を大切にする指導を心掛け実践するとともに、生徒や家庭それぞれの思いに寄り添う丁寧な対応をお願いしたい。
- (3) 保護者・地域の連携については、創立50周年記念行事の運営で培った絆をさらに強化していきたい。さまざまな面で家庭・地域からの理解と協力を得るため、今後も教育活動の様子や生徒の活躍が見えるように発信するなど、広報活動をさらに充実させてほしい。引き続き、信頼される学校を目指して努力してほしい。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

自己評価書からは、「基本的な学習習慣の定着」や「不登校生徒への適切な対応」が課題であるとされている。協議会としても、生徒の育成には学校と家庭・地域の連携が不可欠であると認識している。家庭への働きかけを一層強め、家庭教育の充実を図っていきたい。

3 その他

新年度の開かれた学校づくり協議会の活動は、学校とも相談しながら地域としての連携を強化し、今後さらなる教育活動の充実が図られるよう協力をしていきたい。